

チェルノブイリ40年・フクシマ15年の集い

～チェルノブイリ・フクシマを繰り返すな!原発事故被害者の訴え～

2026年 4月26日 (日) 午後 1:30～4:30

大阪市立総合生涯学習センター (第1研修室)

(資料代: 800円 学生・障がい者 400円)

プログラム

1. <事務局報告> チェルノブイリ40年・フクシマ15年に際して
チェルノブイリ・フクシマを繰り返すな! 事故被害者の人権と補償の確立を
2. <お話し>
福島から「事故15年・被害の実相～国・東電は責任を果たせ!」
佐藤龍彦さん 福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会・事務局長
前田 潔さん 福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会・運営委員
福井から「これ以上増やすな! 使用済み核燃料」
山崎隆敏さん 「若狭連帯行動ネットワーク」福井連絡先
3. <歌・ギター演奏>アカリトバリさん
4. <メッセージ> チェルノブイリから: ベラルーシ「移住者の会」

1. 質疑応答, 討論, アピールなど

(手作りケーキなど「救援バザー」あります!)

「救援関西」は、フクシマ原発事故後の15年間、フクシマ原発事故被害者との連帯、チェルノブイリとフクシマを結ぶ活動にも取り組んできました。フクシマの被災地では、未だ課題が山積みです。それにもかかわらず政府は、事故の責任を取ろうとしないばかりか、「医療費等減免措置」など被害者支援を切り捨て、放射能汚染水の海洋放出、放射能汚染土の「再利用」など、さらに放射能汚染を拡大して人々に被ばくを強いる政策を強行しています。そして、原発の「最大限活用」方針に基づき東電の柏崎刈羽原発など、再稼働を強行しています。このような原発推進策は、日本で原発重大事故を招く危険性をさらに高めます。チェルノブイリ・フクシマを繰り返させないために、事故被害者の訴えを聞き、被害の実相を知り、広め、推進策に歯止めをかけていきましょう。そして事故被害者への支援打切りに反対し、国の責任での「健康手帳」交付など、健康と生活の保障を求めましょう。

集いでは、事故後15年の福島被害者の体験、現状と課題、また福井からは、行き詰まる関電原発の実情、行き場のない使用済み核燃料をこれ以上生み出さないために、敷地内乾式貯蔵の反対の取り組みなど、お話を聞きます。そして、私たちに何ができるか話し合いたいと思います。ぜひ、ご参加ください！



原発から250km以上も離れた森に建てられた放射能汚染を警告する立札(2018年・チェルノブイリ事故後32年撮影)

お話ししていただくゲストの方々のプロフィール

佐藤 龍彦さん：1952年生まれ。福島県楢葉町在住。郵便局退職時に大震災・原発重大事故に遭遇、以降、避難先を転々とし7年後に帰還。現在は、町行政区役員を担い故郷を取り戻す活動を展開中。国と東電の責任を追及し、汚染水海洋放出、柏崎刈羽原発再稼働に反対。医療・介護保険料及び医療費の減免措置見直し方針撤回、国の責任による健康手帳の交付、完全賠償を求めて2022年10月に発足した「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」の事務局長。

前田 潔さん：1967年生まれ。福島県双葉郡大熊町に生まれ育つ。隣町の双葉高校（震災・原発事故後、休校中）を卒業後、地元大熊郵便局に就職。いわき市の特定局に異動し8年後に双葉町に戻る。震災発生時は双葉町内を軽四輪で配達中。当時、同じ敷地内に両親の家と半年前に建てた自宅があった。避難指示が出て、高齢の両親と家族（4人）で2年間、会津若松市へ避難、職場は会津若松郵便局。両親は一年半で「大熊に近いところが良い」「若松は寒い」といわき市に移る。その後、前田さん一家もいわき市に転居。いわき市内の郵便局勤務となり現在に至る。大熊町の自宅と両親の家（実家）は今も帰還困難区域にある。

山崎 隆敏さん：1949年 福井県今立町生まれ。1972年、水俣病支援のボランティア活動に関わる。1973年、福井臨工・火電 海女さんたちを支援。1975年から越前和紙販売業に従事。1991年「若狭連帯行動ネットワーク」に参加（現在「若狭ネット」福井連絡先）。1993年「足羽川ダム阻止全国地権者同盟」事務局長。1995年、今立町議会議員に当選し、ヨウ素剤の町内配備を実施させ、「もんじゅ廃炉」を求める国への意見書をまとめる。著書：『福井の月の輪熊と原発』八月書館（1990年）他。

福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会

政府は、2022年4月、原発事故による避難指示区域の医療・介護保険料及び医療費の減免措置（「医療費等減免措置」）を、避難指示解除から10年程度でを終了し、段階的に削減・廃止する方針を決定し、2023年から強行しています。この政府方針を撤回させようと、2022年10月に避難指示区域の被害者が中心になって「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」（「守る会」）が発足しました。

国策で進めた原発で重大事故を起こし、放射能汚染で故郷を奪い、生業を奪い、避難生活を強いて、そして避難指示地域をはるかに超えた地域の多くの人々を被ばくさせました。その責任は国と東電にあります。「医療費等、減免措置」は、原発事故被害者に対して国が行うべき最低限の「補償」であり、被害者の権利です。未だ生活再建途上にある被害者にとって、「医療費等減免措置」はまさに「命綱」です。

「守る会」は、「医療費等減免措置」継続と併せて、被害者への救済（賠償、その他支援策）を求めています。さらに、全ての福島原発事故被害者に、国の責任で無料の医療・健康管理、等を生涯にわたって保障する「健康手帳」の交付など、原発事故被害者援護のための法整備（国による「健康手帳」交付等を定めた「被爆者援護法」に準じた法整備）を国に求めています。全国署名を呼びかけ、事故被害者と全国の人々の声を背景に、諸団体とも協力し、政府交渉にも取り組んでいます。「救援関西」は「守る会」のサポート会員として連帯・協力して取り組んでいます。



「核のゴミと福井の未来を考えよう！」～山崎隆敏さん作成のリーフレット



リーフレット「核のゴミと福井の未来を考えよう！」は、福井県にある関西電力の原発で、今まさに問題となっている核のゴミ（使用済み核燃料）問題について簡潔に分かりやすくまとめられています。関電は、いよいよ使用済み核燃料プールが満杯になり原発の運転ができなくなる状況を前にして、敷地内に乾式貯蔵施設を作り、原発の運転を継続（延命）させようとしています。リーフレットは多くの疑問に答える形で、*処理・処分ができず溜まり続ける核のゴミ*約束した県外搬出も袋小路 *その中で原発の運転を続けるための窮余の策としての「敷地内乾式貯蔵」*「プール貯蔵」より「乾式貯蔵の方が安全」は原発の運転を継続するための「ダマシの手口！」*原発は地域振興に役立たなかった *再処理工場の危険性 等々、解説してくれています。そして「万年先、いや千年先、いや50年先の、子孫のなげきを想いつつ、冷静にそして誠実に議論しよう」と呼びかけています。「核

のゴミ」は福井だけの問題ではなく、関西、さらに全国の問題です。フクシマを繰り返さないためにも、ぜひこのリーフレットをご活用ください。

（第3版を増刷中です。核燃料サイクルは破綻しているけど、リーフレットは、例えばコンビニに置いてもらったら、見た方から連絡が来るなど、いいサイクルで回っているそうです。まず現状を知ることから!）

戦時下のウクライナの子ども達の絵画展

～チェルノブイリ 40 年とフクシマ 15 年を結んで～

会場：阿部野市民学習センター ギャラリー（あべのベルタ 3 階）

日時：2026 年 3 月 26～29 日 10 時～19 時

（28 日：18 時, 29 日：15 時まで）

入場料無料（カンパ大歓迎）

2022 年 2 月 24 日、ロシア軍はベラルーシのチェルノブイリ汚染地域を通してウクライナに侵攻しました。チェルノブイリ原発を占拠し、街や村を破壊し、人々を殺戮しながら首都キーウに向けて南下しました。私達は、ロシアのウクライナへの侵攻を非難し、「即時無条件停戦」を訴える声明を出し、国内外の市民と連帯してデモや集会にも参加しました。

ロシアはミサイル攻撃やドローンなどで爆撃を続け、首都キーウをはじめウクライナ各地で、子どもを含む市民の死傷被害が出ています。ウクライナ東部では戦闘が激化し、欧州最大のザポリージャ原発は未だロシア軍の占領下にあります。さらにロシアは核兵器使用の脅しを行い、ベラルーシにも核兵器を配備しました。一方、ウクライナを支援する NATO 諸国は、様々な最新兵器の供与をウクライナに行い、軍事的緊張がさらに高まっています。ロシアの侵攻から 4 年を迎えても、未だ停戦の目処は立っていません。



ウクライナのチェルノブイリ被災者への支援に長年取り組んでいる「NPO 法人・チェルノブイリ救援・中部」（愛知県）が、「戦時下のウクライナの子ども達の絵画展」開催を呼びかけています。私達は、ウクライナの子ども達からのメッセージを広く皆さんに伝え、一日も早く停戦が実現することを願って、関西でも「戦時下のウクライナの子ども達の絵画展」を開催します。

チェルノブイリ原発事故による汚染地域はウクライナ、ベラルーシ、ロシアの三国にまたがっています。

私達「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」はベラルーシとロシアのチェルノブイリ被災者と交流・支援を 35 年にわたって行ってきました。ベラルーシとロシアにいる私達の友人達は、戦闘に直接に巻き込まれてはいませんが、ウクライナにいる親戚や友人の戦争被害をとっても心配しています。しかし、政府による政治的抑圧の下で公には「戦争反対」の声を上げられません。また、日本の私達は、停戦が実現して情勢が落ち着かないと、ベラルーシやロシアにいるチェルノブイリ被災者を訪ね、とりわけ気掛かりな闘病中の友人を見舞うこともできません。一日も早い停戦を心から願っています。

今年「チェルノブイリ 40 年・フクシマ 15 年」の節目に、強行される原発推進を止めたい！と、原発重大事故の被害の実情を伝えるパネル展示も併せて行います。ぜひ、会場に足を運んでください！

《チラシも参照ください》



「チェルノブイリ・私の痛み」
ベラルーシの子ども達の絵(2015 年)

ウクライナから兵庫県に避難中の大学院生

アンナ・トライノさんを囲んで、お話を聞く会

3月28日(土) 午後1時半～3時

「絵画展」会場にて

アンナ・トライノさん(24歳)は、日本のアニメが好きでウクライナの首都キーウの大学で日本語を学んでいました。2022年2月、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、キーウも爆撃を受け、しばらくは地下室での生活。その後、お母さんと一緒にウクライナ西部の街へ、さらにチェコに避難。バレエの先生をしているお母さんが、たまたま淡路島でバレエ指導者を受け入れる支援があること知り、日本語を勉強している娘のアンナさんと一緒に日本に避難することを決意したとのこと。キーウ大学3年生だったアンナさんは、最後の1年間を日本でオンライン授業を受け、卒論を書いて卒業し、そして神戸学院大学大学院に進みました。大学院では日本語とウクライナ語の比較をテーマに研究する傍ら、キャンパス内にある「ウクライナ名誉領事館」で「インターン」として活動し、ウクライナ文化の紹介や、日本に避難しているウクライナ人への援助などにも携わっています。



アンナさんは日本語はペラペラで、とても気さくな方です。深い思いやりと同時に、困難にも立ち向かう強い意志を感じさせる、素敵なお人柄の女性です。ぜひ、お話し会にご参加ください！会場スペースの関係で、あらかじめ参加者の人数を把握をしたいと思います。

参加希望の方は、事前にご連絡ください。(連絡先：072-253-4644 いのまた)

映画「よみがえる声」を鑑賞して

久保きよ子

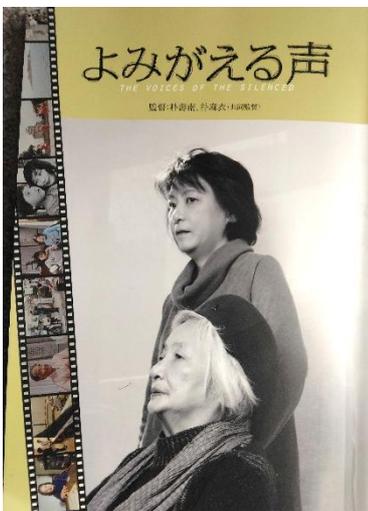
昨年12月の「救援関西」発足34の集いで、私たちは「韓国の原爆被害者を救援する市民の会」会長の市場淳子さんをお招きして「なぜ広島・長崎で被爆した韓国人が多かったか！」について学びました。今回「よみがえる声」の映画を鑑賞して、また、知らない事が多かったのにショックを受けました。

映画の冒頭、母と娘の会話。娘が、「映画を見てくれる人たちに分かりやすく編集すること」を勧める。母は激怒。「分かりやすくするとは何て言うこと。ありのままの事実を伝えることが重要なのだ」と。2025年で90歳を迎えた映画作家・朴壽南(パク・スナム)さんと、娘・朴麻衣(パク・マイ)さんとの共同監督で作上げた映画です。歴史に埋もれる「声なき者たち」の物語を克明に記録した約2時間半に及ぶドキュメント作品。広島では韓国・朝鮮人被爆者の声を、沖縄では強制連行・従軍慰安婦など歴史の証言をカメラを通して伝え、まさに「過去を知ることによって未来を拓く」ことを伝えています。以下、映画のパンフレットから少し簡略して、いくつかご紹介します。

1910年 日本による朝鮮植民地支配が始まる。

1919年3月 大日本帝国による植民地支配からの解放運動が始まり、独立万歳運動に関わったとして、4月15日、日本の憲兵は京畿道堤岩里（チェアムリ）教会の礼拝堂に15歳以上の信徒を集め、出入口を閉鎖・監禁し、教会に火をつけた。夫を殺された、唯一の生存者である認知症を患っている老婆はカメラを向けると、鮮明に当時の惨事と恐怖と怒りを30分にわたり切々と語る。この証言をもとに1983年には23体の遺骨が発掘された。

まるで作られたドラマの話みたいですが事実なのです。この場面は私も背筋が凍る思いと、当時の大日本帝国の血も涙もない所業に、戦争は絶対にしてはいけない！との思いを強く強くしました。



1941年、太平洋戦争を遂行するために大勢の朝鮮人を日本の炭鉱や鉱山、軍需工場へと動員する。三菱重工長崎造船所に6千人を超える朝鮮人が強制連行された。1943年4月、14歳で軍艦島の海底炭鉱へ強制動員された徐正雨（ソ・ジョンウ）さんは語る。坑内は狭く腰をかがめての採掘に「坑内温度は37～38度あるんです。暑くてガスが出て、眠いし、苦しいし。」食事は豆かす8割と玄米2割の飯と粗末なおかず、毎日のように下痢に悩まされた。仕事を休もうものなら監督からリンチを受ける。『勝手は許されん』が、監督の口癖だった。海に飛び込んで自殺しようと何度も何度も岸壁に立ったが飛び込めなかった。仲間の中には泳いで逃げようとしたが、途中で力尽き溺れて亡くなった者もいる。この炭鉱には、多くの朝鮮人だけでなく中国人も働かされていた。徐正雨さんは5か月後に三菱重工長崎造船所

に移動させられ1945年8月9日、作業中に被爆、長崎市内の遺体処理作業を命じられ重い原爆症にかかった。長期療養のうえ、民族差別に苦しめられた。

福岡県、筑豊の炭鉱に連行された朝鮮人は15万人にもものぼる。安龍漢（アン・ヨンハン）さん、当時16歳。13歳や14歳の子どもたちも一緒に働いていた。その少年が落盤事故で亡くなった。子どもの遺体を引き出そうとしていたら、現場監督が坑内降りてきて、「石炭がもったいない、炭を先に地上に運び出せ。子どもの死体は後で運べ」と、命じた。同胞たちは「国を奪われた民族は、こんな仕打ちを受けるのか！」と、胸をたたいて嘆いた。

広島で被爆した金分順（キム・ブンスン）さん。当時18歳。体から膿が出てハンセン病だといじめられ、誰も私に近づかなかった。韓国に帰国後、日本政府の謝罪と賠償を求めて結成した「韓国原爆被害者協会」に参加、被爆者の支援に献身する。

昨年は、被爆80年・敗戦80年。戦争による日本人の犠牲の悲惨さを切々と訴える記録が報道されていました。戦争は人々の悲しみや憎しみを増大させるだけであり、戦争を絶対にしてはならないと、心に強く思っていました。そこへ、今回はこの「よみがえる声」を鑑賞して、「強い国日本」が、植民地支配をした朝鮮の人びとに対して何と傲慢で、非人道行為を積み重ねて来たのか、改めて突きつけられた思いです。本当に過去に行った日本の卑劣極まりない行為をしっかりと受け止め、未来を切り開く力としているのでしょうか。再度、自問自答しなければならないと、深く反省しています。「戦争をする国づくり」を目指す日本政府を危惧するのですが・・・。「戦争は最大の差別行為」です。「人権を無視する国」へと日本がさらに進んで行かないように、私たち一人ひとりが、頑張る覚悟がいます。

「いっしょにふえすた 2026」に参加して

2月14日、浪速区民センターでたのしい催しがありました。大阪市教職員組合女性部が中心となり、年一回、色々な方々と「いっしょに過ごす中で、出会い・つながり・元気を持ち帰ろう」という趣旨の集まりで、「救援関西」もブースを出させていただきました。

各ブースはそれぞれいろんな切り口で取り組んでいる方々が、世の中を良くしたい、しなやかに生きたいと、展示や物販を拡げています。「若狭ネット」は若狭の原発の使用済み核燃料プールが満杯に近づいているのに、関西電力は原発を動かし続けるため、新たに敷地内に乾式貯蔵施設を『一時保管です』と言って建設していることを報告。「I女性会議 大阪」のブースは環境にやさしい石鹸とコンニャクの販売。「あいむひあ大阪」は2013年から毎年福島の前被災地を訪問し交流を続けて、大事なつながりをアピール。「ヘイト問題を考える会」は東大阪市で条例をつくらうと呼びかける。「RAWA（アフガニスタン女性革命協会）と連帯する会」は就学を禁じられたアフガニスタンの子どもの絵画展を紹介。障がい者の就労施設はバッグ等さおり織製品の販売。等々、互いに知らないことを聞いたり、グッズを買ったりしていました。

今年のゲストは大森暁（あき）さん。ジム「Ninaru 代表」。生まれた時からフェミニストやクィアアクティビストの中で育ち、ご自身も様々な障壁にぶつかり、安心して運動できる環境の必要性を感じて、Ninaru を立ち上げたとのことでした。ジムやフィットネスのルッキズムによる無理なダイエット、マッチョなイメージ、女性らしいイメージにとらわれない、自分の体とのちょうどいい関係、セルフケアを模索されていました。「目を閉じて体の一番疲れている部署を感じる・そこに手を添える・そこに息を吹きかけるように大きく深呼吸」実技は気持ちよく、意識していないことを意識する、気づいていない事に気づかされる体験でした。



最後は「退職女性教職員の会」朗読サークルの皆さんの朗読「ひろしま」で締めくくられました。ひろしまであの時亡くなった子どもの心になって、呼びかける朗読に、一同聞き入りました。

救援関西は、いつものバザーに加え、3月の「戦時下のウクライナの子どものたちの絵画展」4月の

「チェルノブイリ 40年・フクシマ 15年の集い」のチラシを配りましたが、皆さん、本当に快く聞いてくださいました。また、互いに語り合えて、いい時間を過ごせました。世の中捨てたもんじゃないと、元気に帰路につきました。「救援バザー」もしっかりさせてもらいました（ゆみ）

カンパ・会費の納入ありがとうございました！

(2026.03.~2026.03.09)

堀田美恵子 森本良子 公庄レイ 田原良治 梅原桂子 大平文昭 丸本加寿代 小林眞弓
野中マサ子 後藤田真千子 野口タイ子 岸本久美子 市場淳子 宗泉寺 旦保立子 碧海宏
鎮西節子 佐藤みえ 西尾獏 寺西清 徳井和美 高橋武三 長沢啓行 増田俊道 泉迪子
折口晴夫 中井かをり 稲田みどり 崎山昇 岩部始 斎藤直樹 奥野八重 花岡光義 阪田幸子
藤岡正雄 畑中宏子 原長正 神崎加与子 奥谷恵子 松本郁夫 藪本明宏 松田光代
滝沢厚子 衛藤英二 中城昭夫 金子龍太郎 佐藤みえ (順不動・敬称略)

